

学部と附属による若年教員向け 研修動画コンテンツの開発

十河 妹 ・ 松下 幸司 ・ 宮崎 英一 ・ 植田 和也*
(教職実践) (附属教職支援開発センター) (技術) (高度教職実践専攻)
山城 貴彦** ・ 大和田 俊**
(附属坂出中学校) (附属坂出中学校)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

*760-8522 高松市幸町1-1 香川大学大学院教育学研究科

**762-0037 坂出市青葉町1-7 香川大学教育学部附属坂出中学校

Development of Training Video Contents for Young Teachers by the Faculty of Education, Kagawa University and the School Attached to the Faculty of Education, Kagawa University

Mai Sogo, Koji Matsushita, Eiichi Miyazaki, Kazuya Ueta*
Takahiko Yamashiro** and Shun Ohwada**

Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522

**Graduate School of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522*

***Sakaide Junior High School Attached to the Faculty of Education, Kagawa University, 1-7 Aoba-cho, Sakaide 762-0037*

要 旨 若年教員が授業づくりの基礎・基本を学ぶことのできる研修動画コンテンツの開発を行った。中学校社会科の授業実践を対象に〔授業編〕〔解説編〕の2部構成とし、若年教員が具体的な授業イメージを持つことができるよう配慮した。検証結果から、授業内容や字幕の見易さなど課題が明らかになると共に、若年教員にとって新たな気づきや学びのある研修動画コンテンツであるとの評価を得られ、今後の開発の方向性を見出すことができた。

キーワード 若年教員 教員研修 研修動画コンテンツ 授業力向上

1 はじめに

教育界でも部活動の指導や保護者への対応、教材研究や事務作業などにより、教職員が非常に多忙であることが社会問題となり働き方改革が強く叫ばれるとともに、優れた教材や教育実践を支援するコンテンツを教職員が共有・活用できる基盤が求められている。さらに、大量退職に伴う若年教員の増加により、魅力ある教材開発や授業研究に関する個人研修にICT環境を活用して取り組むなどといった、教員研修の在

り方自体に多様性が求められる状況が生じている。

そこで、本学教員と附属学校園の教員の共同プロジェクトとして取り組んだ「社会科教育の教材研究」に関する動画コンテンツの作成とネット上への提供について、本稿ではその一部を紹介する。

2 目的と方法

本研究の目的は、香川大学教育学部と香川県

教育委員会の連携による教員研修システム共同開発委員会において、特に香川県教育委員会から要望のあった若年教員向けの授業力向上を目指した研修動画コンテンツの開発を行うことである。

教職生活の全体を通じて、学び続ける教員を支え、教員の資質能力の多様化及び高度化を図ることが求められている。同時に、教員の働き方改革についても推進が求められている。そこで、香川県教育センターでは、Web上にオンライン研修サイトを開設し、教職員研修のより効率的・効果的な実施を目指している。このオンライン研修サイトのコンテンツの一つである研修動画コンテンツを、香川大学教育学部と附属坂出中学校が協力して開発することで、教員研修の充実に貢献したいと考え、取り組むこととした。

(1) 開発の実際

開発の時期と内容を表1に示す。

(2) 撮影

動画教材の素材となる動画撮影について、以下、(A) 授業の撮影、(B) 解説の撮影 それぞれのポイント・配慮点・課題をまとめる。

(A) 授業の撮影について

若年教員を対象とする研修教材においては、特に、授業の具体的なイメージを的確に把握できる動画素材を撮影することが必要である。特に「教師の働きかけ」と「児童生徒の反応」の両者が理解できるように配慮し撮影を行った。

本研究では、教材開発の試みとして、本年(2018年)6月8日に附属坂出中学校で開催された教育研究発表会において行われた山城教論の実践 中学校2年生 社会科「附坂中版 災害に強いまちづくり計画」を対象とすることとした。また開発する教材の動画素材としては、当該実践を実践記録のために松下が撮影していた記録動画(動画・静止画)を用いることとした。

本教材開発で使用した動画は、隣接する2台のカメラ(ビデオカメラ+スチルカメラ)を松下一人で操作し撮影しているため、動画素材にシャッター音が記録されてしまっていたり、また授業会場が体育館であるため、教師や生徒の発話が聞き取りづらくなってしまったりしている。本来であれば、教師がワイヤレスマイクを装着し、発話音声を収録する等の方法を採用することがより適切であると考えられる。本研究では、動画素材として課題はあるものの、教材開発の試みとして、松下の実践記録画像を素材とすることにした。

なお本研究の開発教材においては、授業展開の流れがより明確になるよう、本時(6月8日)の授業記録に加え、6月5日に実施された前時の授業実践を松下が記録撮影した素材を含め、授業の動画素材として使用している。

(B) 解説の撮影について

授業実施後、授業者に自身の授業を振り返り解説動画素材を撮影した。視聴者となる若年教員が、できるだけ授業イメージを持ちつつ授業

表1 開発の実際

時 期	内 容
第1期 平成30年7月	共同研究体制づくりと研修動画コンテンツ開発のための調査を行う。 検討委員会を2回開催し、山城教論の実践授業「附坂中版 災害に強いまちづくり計画」を取り上げることに決定する。
第2期 平成30年8月 ～12月	解説動画素材撮影前に検討委員会を3回開催し、コンテンツのテーマやポイントについて話し合う。より自然な形で若年教員に語りかけるような研修動画にするため、インタビュー形式で撮影を行う。 検討委員会で編集の方向性を決め、編集作業を行う。
第3期 平成30年1月	県教育センター指導主事や本学学部生等に対する質問紙調査により、研修動画コンテンツの評価を行う。
第4期 平成30年2月 ～3月	これまでの研究をまとめ、学部・附属学校園教員合同研究集会において、研究成果を発表する。 研修動画コンテンツの改善を行い、HPにアップロードする。

者の語りを聞くことができるよう、附属坂出中学校の社会科教室後方に本時で使用した地形図を掲示し、地形図を背景に教師が語る場を設定して、解説動画素材を収録した。

解説動画素材の撮影においては、編集における使用の可能性を想定し、デジタルビデオカメラ3台をそれぞれ三脚に据え付け、3ショットで固定撮影を行った。また視聴者に向けて語りかけつつも圧迫感のない映像となるよう、授業者バストショットを撮影するカメラの斜め後方にインタビュアが座り、インタビュアの質問に授業者が答える要領で解説動画を撮影した。本解説動画のために収録した素材動画は約2時間であった。(解説動画撮影時の状況は、写真1を参照。)

(3) 動画編集

動画教材の編集においては、視聴者である若年教員が負担なく視聴できる時間で研修教材を構成する必要がある。NHK学校放送番組の時間の長さも参考に、研修動画教材で伝えるべき内容量を考慮し、本研究では15～20分間を動画教材の時間として設定した。また本研修動画教



写真1 解説動画撮影の様子

材は、「授業編」と「解説編」の2部構成とすることとした。以下、(A)「授業編」の編集、(B)「解説編」の編集それぞれのポイント・配慮点・課題をまとめる。(研修動画教材の全体構成の概略は写真2を参照。)

(A)「授業編」の編集について

授業の概要を紹介する「授業編」においては、特に若年教員が視聴者であることから、授業の具体的なイメージを的確に把握できる動画にすることが何より重要である。その授業空間に自分が居るかのようにリアリティをもった授業イメージを表現することを目指し、授業を記録した動画像の編集を行った。また、動画教材が冗長になってしまえば、授業の概要が伝わりづらくなるだけでなく、授業の魅力が伝わらず、若年教員の「自分もこのような授業をやりたい」という関心意欲や向上心を減衰させることにも繋がりがかねない。授業編では、「授業の展開の概要は、静止画に解説字幕を加える表現方法とする」「特に重要な発問や資料提示シーン以降、それらの授業支援による児童生徒の反応と学習活動の中心シーンが授業の核であることから、具体的なイメージを伝え理解を促すことを目指し動画で構成する」ことを軸に、編集をすすめた。

授業編が仮完成した段階で、本研究グループメンバーが試聴し検討を加えた。視聴者である若年教員が、授業編の後に続く解説編をより授業の具体像をイメージして視聴できるよう、授業の概要を静止画と動画で紹介した上で、授業構成を静止画でコンパクトにまとめた「授業構



写真2 研修動画教材の「授業編」「解説編」の構成
(完成した動画教材から抽出した画面)

成Overview」を添える構成にした。

(B)「解説編」の編集について

授業者が自身の授業について解説する「解説編」の素材として、前項(2)(B)で撮影した約2時間の素材動画を編集するにあたり、まず授業者とインタビューが発した言葉の全てを文字起こしし、発話データを作成した。その発話データを研究グループメンバーで検討し、本教材の解説編で取り上げる大まかな解説内容を決定した。その後、編集を担当した松下が解説された内容によって小テーマを設定し、解説内容をグループ整理して、発話データ中の、どの言葉を編集で採用し構成するかを決め、編集にとりかかった

解説編においては、「学習指導要領と学校種・教科に基づく学習活動」の大まかな解説の後、「授業づくり・授業実施のポイント・配慮すべき点」についてまとめる構成とした。また若年教員にも分かりやすい言葉で語られている解説箇所を選び、さらにポイントを字幕表示することで、聴覚・視覚でポイントを押さえることができるようにした。併せて、若年教員が授業づくり・授業実践に取り組む際に心がけてほしいことを、授業者が語ったシーンを「若年教員へのメッセージ」として括り出し、解説編の最後に加えることで、より視聴者である若年教員が、授業者を身近な人として捉え、「自分でもこの授業者のようにやってみたい」と思えるよう、また授業者に親近感を持ち「もう一度この動画教材を視聴して、自分のために学び直したい」と思える動画教材となるよう、構成を工夫した。

本教材開発の結果、「授業編（授業構成Overviewを含む）」と「解説編（若年教員へのメッセージを含む）」はそれぞれ約7分となり、研修教材全体のオープニングとエンディングを加え、約15分の研修教材となった。

(4) アップロード

①ビデオのネットワーク閲覧に関して

特に本章では、サーバーにコンテンツをアップロードする手順について説明する。本研究のようなインターネットを利用したビデオ配信に

は大きく分けて1)ストリーミング配信, 2)プログレッシブダウンロード配信の2つの手法がある。

ストリーミング配信¹⁾では、サーバーから映像や音声データが少しずつ配信され、受信した側で同時に再生する。ネットワークへの負担がなく、ユーザーはダウンロードを待つことなく、すぐに映像や音声を視聴できる。しかし、ストリーミングではサーバー側で通信帯域を調整してスムーズに見られるようにしており、シークもサーバーサイドで行うため、サーバー側の負荷が大きく大規模配信には向かないⁱⁱ⁾。

一方、プログレッシブダウンロード配信は、プロトコルとして主にHTTPを使い、ファイルをダウンロードしながら再生するという形式を取っている。途中からのダウンロードは技術的に難しいため、キャッシュをローカルコンピュータに残す傾向にあり、クライアントサイドでの高速なシークが可能であるが、通信速度が遅いとキャッシュが溜まるまで動画がスムーズに再生できないという問題がある。これらの特性をまとめると、

プログレッシブダウンロード配信が適したケースⁱⁱⁱ⁾として

- ・配信コストをかけたくない
- ・大規模でなく、小規模に手軽に始めたい
- ・社内、学内などのイントラネットに動画サイトを構築したい

また、ストリーミング配信が適したケースとして

- ・なるべくコピーしづらくしたい
- ・ライブ放送（ライブストリーミング）を行いたい
- ・非常にたくさんの方が同時視聴する可能性がある

となる。本研究では、配信コストを安価にしたという事、まずはパイロットモデルとしてスモールスタートで開始する事、ライブ配信は行わない事、同時に多重視聴が無い事（講習会場等では多くの人数で視聴するが、これは1台だけのダウンロードコンテンツを同時に視聴するので同時視聴では無い）、等の理由からプログ

レッシュダウンロード配信での配信を採用した。

②プログレッシブダウンロード配信の準備

プログレッシブダウンロード配信を行うにおいて、配信サーバー側にはストリーミングサーバーのような設定は必要ないが、配信するコンテンツには事前にプログレッシブダウンロード用にファイルを変換^{iv}しておく必要がある。

MP4ファイルには“映像と音声のデータ”と“目次データ”があるが、MP4の再生を開始するためには事前に目次データを読み込む必要がある。もし、目次データがファイル終端にあると、ファイル全体を読み込んでからでないと再生できない。そのため、プログレッシブダウンロード対応のMP4ファイルはMP4ファイルの目次データ (moov atom) がファイルの前方にある必要がある。

本研究では参考文献^{iv}の変換手法をそのまま使用させて頂いた。ここでは変換ソフトとしてフリーの「ffmpeg」を用いた。変換のパラメータとして、

```
「ffmpeg -i input.mp4 -codec copy -movflags faststart output.mp4」
```

を設定した。変換のオプションパラメーターとして「movflags faststart」を設定する事で、目次データが先頭にきたプログレッシブダウン

ロード対応のMP4ファイルが生成される。

③ファイルのアップロード

本研究では実際に配信コンテンツの利用を想定しているので、配信システムがいつでも安定して動作している事、ある程度のセキュリティが担保されている事等の理由から、自前のサーバーではなく、大学のWWWサーバーをコンテンツ配信サーバーとして利用した。本学のサーバーは、セキュリティの面から、アップロードは任意の場所では行えず、学内からのみとなっているので、コンテンツのアップロードは大学側で行う必要がある。

今回のコンテンツ配信は「若年教員向け研修動画コンテンツビデオ教材」をターゲットとしているので、頻繁なコンテンツ更新も無く、アップロードも教員側で十分対応可能である。

3 結果

(1) 質問紙調査から

①現職の先生方

現場経験があり、若年教員の指導的立場にある香川県教育センターの指導主事19名と長期研修員8名、香川大学教育学部教職大学院の院生(内地留学生)8名、合計35名に対し、研修動画を視聴いただいた後、質問紙調査を実施した。結果を表2に示す。

表2 現職の先生方の質問紙調査結果 (単位: 回答数 (名))

①画像や音声について	よかった	どちらかといえばよかった	どちらかといえばよくなかった	よくなかった		
	15	14	3	0		
②本動画のメリット 【複数回答可】	具体的な授業の場面が見られる	授業の解説がわかる	校内研修で使える	自主研修で使える	その他	
	11	24	4	18	3	
③本動画の改善点 【複数回答可】	特になし	時間が長すぎる	テロップを多くしてほしい	授業の映像を多くしてほしい	授業の解説を多くしてほしい	その他
	10	2	3	10	0	15
④新たな気づきや学び 【若年教員にとって】	あった	どちらかといえばあった	どちらかといえば無かった	無かった		
	15	17	1	0		
⑤今後の利用について 【HPに掲載された後】	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない		
	8	15	8	1		
⑥今後の開発について 【複数回答可】	授業を支える分かりやすい理論	具体的な授業の場面	具体的な指導方法	新学習指導要領に対応した内容	その他	
	10	21	25	14	2	

①, ②, ④から, 概ね高評価を得ることができたと考える。特に, ④の自由記述欄には, 「普段, 当たり前と考えて授業に入れていることを授業解説の中で価値付けてくれているので, 若い先生方の自主研修にちょうどいい。」や「若年教員へのメッセージが良かった。」など, 多くの肯定意見の記述があった。一方, ③では, 改善点はないという意見も多いが, 解説よりも具体的な授業の映像を多くして欲しいという意見が多く挙げられた。本動画は, 授業映像と解説の2本立てとしたが, その配分をほぼ同じにしている。視聴する側としては, 解説よりも実際の授業の映像が多いことを望んでおり, 具体的に教師がどう発問して, 生徒がどう反応しているかを知りたいという事が分かった。また, テロップについての改善意見が多く, 言葉の精選, 文字の色や大きさ・提示時間の工夫など, 今後の編集作業において改善していきたい。⑤では, 否定的な意見の中に, 「若年教員向けということ考えると, よりイメージが湧きやすい教室内の授業を取り上げてよかったのではと思った。」や「若年には高度すぎて文脈が読みづらいのでは。」という意見があった。一方で, 「他校種でも15分程度であれば, 自主研修で利用したい人もいると思う。」や「若年教員を中心とした授業づくりのための研修教材

として, 非常に有効な教材だと思う。」など, 多くの肯定的な意見も得ることができた。

②教育学部生

香川大学教育学部2～4年生122名に「学校教育課程論B」の授業において, 研修動画の視聴後, 質問紙調査を実施した。本授業は, 中・高の教員免許を取得する学生の必修の授業であり, 新学習指導要領における教育課程の在り方について学んでいる。若年教員に近い学部生に調査することで, より有効な検証ができるのではないかと, それとともに, 本動画を視聴することが学部生の今後の学びにもつながるのではないかと, 考え実施した。結果を表3に示す。

①, ②, ④, ⑤から, 概ね高評価を得ることができたと考える。特に, ④の自由記述欄には, 「視点を変えて授業を行うことで生徒にとって面白い学習, 楽しい学習につながるということは, 保健体育にも生かすことができる。」や「教師が先に教材を作ってみることで, 作業量が分かったり, 気付きから学習を深めておくことが可能になったりする。」「教師が知らない振りをすることや, 待つことで, 生徒が主体的に考えるようになる。」など, 他教科の指導においても汎用できるといった記述が多く見られ, 本研修動画の作成意図が一定程度達成できていると考えた。⑤についても, 肯定的な意見

表3 学部生の質問紙調査結果 (単位: 回答数 (名))

①画像や音声について	よかった	どちらかといえばよかった	どちらかといえばよくなかった	よくなかった		
	64	51	5	2		
②本動画のメリット 【複数回答可】	具体的な授業の場面が見られる	授業の解説がわかる	校内研修で使える	自主研修で使える	その他	
	78	83	13	17	0	
③本動画の改善点 【複数回答可】	特になし	時間が長すぎる	テロップを多くしてほしい	授業の映像を多くしてほしい	授業の解説を多くしてほしい	その他
	46	11	18	39	3	33
④新たな気づきや学び 【若年教員にとって】	あった	どちらかといえばあった	どちらかといえば無かった	無かった		
	51	54	7	5		
⑤今後の利用について 【HPに掲載された後】	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない		
	51	52	15	3		
⑥今後の開発について 【複数回答可】	授業を支える分かりやすい理論	具体的な授業の場面	具体的な指導方法	新学習指導要領に対応した内容	その他	
	48	53	61	43	2	

が多く、若い世代の方が、インターネットを通じて研修を行うことのメリットを感じていると考えた。一方、③では、現職の先生方と同じく、テロップの文字についての改善意見が多かった。これに加えて、効果音やBGMについての指摘が見られたのが特徴的であった。SNS世代の学生や若年教員は、見やすい映像や障りのない効果音などに慣れているため、この点について、より工夫する必要があると分かった。

(2) 授業者による振り返り

今回の動画作成において、伝えたかったことは何だったのかを振り返る。

一つ目は、「教師自身が楽しいと思えるために、教材研究の過程において教師自身も持っている社会的認識と違うものをいかに見つけるか」ということである。そして、「生徒がどのような社会的認識をもっているかを理解していくことを踏まえ、教師が生徒にどのような世界を見たり、感じたりしてもらいたいかを明確にもって単元を構成していく」ということである。今回の場合だと、単元全体を通して、避難するまでのことしか考えていなかった生徒に対して、避難後のことを考えた上で防災についての認識を深めてもらいたいと願いをもつことが大切であることを改めて確認することができた。

二つ目は、「指導内容を所与のものと考えず、そこに至るプロセスを中心に考えていくことの大切さ」である。地理学習の一つの楽しさである、自分たちで地図を作る楽しさ、そこから見えてくる地域的特色を見つけられる面白さを、生徒に味わわせられる教員になってもらいたい。そのためにも、教師自身が、その過程をつくり出していく面白さを実際に体験し、生徒が自分たちで社会的認識を獲得したときの表情から、授業づくりに対する達成感を感じていてもらいたい。

三つ目は、「教師が方法の専門性をもつことの大切さ」である。生徒に獲得してもらいたい社会的認識を、生徒自身がどのようにして獲得していくかをプロデュースしていくことこそ重要である。その過程においてこそ、『主体的で、対話的で深い学び』は実現可能である。

四つ目は、今回の授業では十分とは言えないが、「単元を通して、一人ひとりに役割をもたせ、課題を解決していく場を設定していく大切さ」である。単元の中で生徒にどのような力を身につけさせたいかを踏まえ、どのような場を設けることが、生き生きと一つのものに取り組む生徒の姿につながるかを考えてもらいたい。

今回の動画をクリティカルに視聴していただき、「主体的で、対話的で深い学び」を実現するために、より多くの学校で授業づくりについて考える機会になることを願っている。

4 おわりに

これまで本学教育学部においては、大学と附属学校園の合同研究集会在19年間に渡り継続的に実施されてきた。そのなかで、このような協働した研修動画コンテンツの開発は初めての試みであり、改善の余地は多い。今後は、本研修動画コンテンツを活用された方々の実際の反応や活用状況等について、追跡調査等を検討していきたい。その点に関しては、熊本大学教職大学院が熊本市教育センター及び熊本大学教育学部附属小学校と連携し開発されたデジタルコンテンツは、開発だけでなくその後の活用や公立小中学校への告知等まで実践されており、先行事例として参考にしたい。

また、現職の先生方への視聴アンケートから、「若い先生方の自主研修で活用できる。」や「若年教員へのメッセージが良かった。」など、若年教員を対象に開発したことへの反応も得られた。そして、今後の開発においては、①学習指導要領解説等の基本的な事項をより分かりやすく取り上げるための工夫、②多様な分野でのコンテンツ開発、③ネット上で視聴するだけでなく、その後の相互やりとりができる環境づくり、④如何に各学校の教員に効果的に活用してもらおう広報等、すべきことや課題も多くあげられる。そのような点も踏まえながら、若年教員が如何に日常の授業に生かせるかといった視点も忘れずに、取り組みをすすめたい。

付記

本論文中の執筆者の所属名は、平成30年度における所属名である。

【註】

- ⁱ ストリーミング ASCII.jpデジタル用語辞典の解説 <https://kotobank.jp/word/%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%9F%E3%83%B3%E3%82%B0-4964>
- ⁱⁱ プログレッシブダウンロード <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%AC%E3%83%83%E3%82%B7%E3%83%96%E3%83%80%E3%82%A6%E3%83%B3%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%89>
- ⁱⁱⁱ ネット動画の配信方式：ストリーミングとプログレッシブダウンロードとは？ <https://blog.socialcast.jp/05/post-15/>
- ^{iv} プログレッシブダウンロード対応の MP4ファイルを作成する：Tips & FAQ https://aruo.net/arbkb/blog/article/techclip_how2make_mp4_video_file_for_progressive_download_with_ffmpeg_or_mp4box

学部と附属による若年教員向け研修動画コンテンツ（インタビュー内容）

★若年教員向けの研修動画コンテンツなので、なるべく平易な言葉で、教育実習生に伝えるように分かりやすく答えていただきたいです。

1 社会科の基礎・基本、思考を深めるしかけについて

① 中学校社会科地理における学習指導要領とのつながり

Q1 本単元の重点指導項目は、学習指導要領解説のどの内容ですか？

Q2 本単元を通して、どのような資質・能力の育成を目指していますか？

（研究紀要 P72 の表の中）

知識・技能は…、思考力・判断力・表現力は…、学びに向かう力・人間性は…

Q3 このような資質・能力を育成するために、単元構成等で工夫した点は？

② 防災や郷土を題材に取り上げる意義

Q1 なぜ、防災や郷土を取り上げたのですか？

（研究紀要 P71 の（1）第二段落の内容）

Q2 防災や郷土を題材に取り上げる際に、留意した点は何ですか？

Q3 授業後、生徒の防災や郷土に関する意識はどう変化しましたか？

③ 子どもの思考を深めるしかけ

Q1 津波水位について、当初の生徒の認識はどのようなものでしたか？

Q2 津波水位について、県の想定を示した後、内閣府の想定を示すことで、生徒の思考にどのような変化がありましたか？

Q3 子どもの思考を深めるしかけとして、普段から心がけていることはありますか？

2 授業づくりの基礎・基本

Q1 前時までの生徒の意識をどのようにして把握していましたか？

Q2 前時までの生徒の意識を本時の導入にどう生かしましたか？

（坂出市に済んでいる生徒を指名するなど…当事者性を高めるよう工夫）

Q3 生徒の意見の取り上げ方で、普段の授業から心がけていることはありますか？

3 学び合う授業

① 全員参加型の授業

Q1 グループでの作業を取り入れていましたが、なぜですか？

（その意図やどのような効果をねらっていたか…全員参加、他の班との協働）

Q2 グループでの作業を行う時に気をつけていることは何ですか？

② 話し合いを活性化させる教師の言葉かけ（近くまで見に行っているよ）

Q1 何をねらってこの言葉かけをしましたか？

Q2 話し合いを活性化するために、普段の授業で取り組んでいることはありますか？

〈資料2〉

若年教員向け研修動画コンテンツ アンケート

香川大学教育学部と香川県教育委員会の連携による教員研修システム開発委員会において、特に香川県教育委員会からの要望のあった若年教員向けの授業力向上を目指した研修動画コンテンツの開発を行いました。この研修動画コンテンツは、今後、香川県教育センターのHPに外部リンクとして掲載される予定です。

皆さんのご意見をいただき、今後の研修動画コンテンツ開発に生かしていきたいと思っております。アンケートにご協力をお願いします。

1 所属等	<input type="checkbox"/> 学部生 <input type="checkbox"/> 教職大学院（ストレートマスター） <input type="checkbox"/> 教職大学院（現職） <input type="checkbox"/> 香川県教育センター指導主事 <input type="checkbox"/> 香川県教育センター長期研修員 <input type="checkbox"/> その他（記入）
2 画像や音声について	<input type="checkbox"/> 良かった <input type="checkbox"/> どちらからかと言えば良かった <input type="checkbox"/> どちらからかと言えば良くなかった <input type="checkbox"/> 良くなかった
3 本動画のメリット	<input type="checkbox"/> 具体的な授業の場面が見られる <input type="checkbox"/> 授業の解説がわかる <input type="checkbox"/> 校内研修で使える <input type="checkbox"/> 自主研修で使える <input type="checkbox"/> その他（記入）
【複数回答可】	
4 本動画の改善点	<input type="checkbox"/> 特になし <input type="checkbox"/> 時間が長すぎる <input type="checkbox"/> テロップを多くしてほしい <input type="checkbox"/> 授業の映像を多くしてほしい <input type="checkbox"/> 授業の解説を多くしてほしい <input type="checkbox"/> その他（記入）
【複数回答可】	
5 新たな気付きや学び	<input type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> どちらからかと言えばあった <input type="checkbox"/> どちらからかと言えば無かった <input type="checkbox"/> 無かった （気付きや学んだことを簡潔にお書きください）
6 今後の利用について	本動画がHPに掲載されたら校内研修や自主研修で使われると思いますか。 <input type="checkbox"/> 思う <input type="checkbox"/> どちらからかと言えば思う <input type="checkbox"/> どちらからかと言えば思わない <input type="checkbox"/> 思わない （特に理由があればお書きください）
7 今後の開発について	今後、どのような研修動画コンテンツがあればいいと思いますか。 <input type="checkbox"/> 授業を支える分かりやすい理論 <input type="checkbox"/> 具体的な授業の場面 <input type="checkbox"/> 具体的な指導方法 <input type="checkbox"/> 新学習指導要領に対応できる内容 <input type="checkbox"/> その他（記入）
【複数回答可】	

アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。